

香美市
御在所山

「御在所」とは、神や仏・高貴な方のいます所」のこと。
県内、四国内にも御在所(五在所)と名の付いた山には
信仰や貴人にまつわる伝聞が「タタ」い。
この山も源氏との戦いに見えれた平家一門が安徳帝と守り、
阿波から土佐に逸れ、この山の南西山麓の大屋敷に住んだ
ことから御在所山と呼ばれるようになり、一説には帝¹縦た
宰相平教盛をこの山に祀ったため御宰相山がなまって
御在所山になったのではないかと町里にもある。
また「五在所山」とも書いていたことから、五つの在所(集落)が
あることから名付けられた説もある。
大屋敷(王屋敷)、大久保(大公房)、日の御子(帝の子)など、帝や
公家ゆかりの集落名もある。(四国百山より)

大荒の滝
土佐の名水四十選でゐる。
山をへだてた轟の滝から二体の竜が
移り住み、この竜がたわむれると周囲の
山麓一帯が大荒になったといわれる。
黒岩清水さんを中心とする大荒の滝
五人衆が自分たちの力だけで整備し
世に出した大迫力の名瀑。

大荒の滝へ
馬茶屋から2km

平家観音像の碑
昭和33年 地元の人々が2mあまりの
地下より持経観音像と堀り出し。
この像は安徳帝を抱いて海中に
身を投じた二位尼が持っていた仏像
ではないかとして大切にされている。

昭和50年頃までは
木材や木炭の搬出
には木馬が大活躍
していた。
こゝは木馬を引く人の
休憩所だった。
(説明板より)

舗装
 木馬茶屋
 トイレ水.Pあり
 大屋敷

盛教平や徳帝
一行が居住していた
と伝わる(王屋敷)

楽しみながら山に登る「登山」。
信仰ある神や仏を拝むために
山に登る「登拝」。
この山は「登拝」が似合っている。

参道に、くわの木がある。
大杉君は丘を巻く!!
回方に杖をたいてる。

信仰の道 登拝道
高齡の女性が息子と
おぼしき人と登ってわい
女に出会う。
信仰心の厚い人が
登拝する神聖な道。

夫妻松
枯れて危険となったため
1427年に伐倒された。
伐られたのは夫か妻か。
夫と思えば、殺される。

普通神社は南北方向に建てられるが、
御在所山、山頂の葎生山祇神社は
東北方向に建てる高板山の対向を
向いて建てられている。
(高板山は安徳天皇陵墓として伝わる)

香北を流れる物部川のほとりの
景観はゆたかと穏やかで、まるで
ソノハツマソの世界にも共通する。
「人は誰でもその故郷の光と風と
水と空気に育てられる」といった
やなせたかしさんの生まれた朴永
もすぐそばにある。

一年の終わりに山を歩くと
ついで一年間を振り返る。
一日には終わりがあって
一月にも終わりがあって
一年にも終わりがあって
そして一生にも終わりがあつた。
山歩と同じように
一歩のつみかたねが今生まう。

山頂の葦生山祇神社の黒神は
大山祇命より徳帝と平教盛が
合祀されている。
社殿の立派な彫り物には菊の
御紋と桐の御紋が刻まれている。
氏子がおこもりをする通夜堂もある。

天皇家紋章
十六花卉菊

眺望絶佳!! 氏子
物部連山展望所

- 三角点 1079.1m
- 平家の入を記した石彫

平坦 →

石粉

三二八十八ヶ所

大王仔洗鉢

鷹の石の竈
片方は南海の雲
頭がとれたといふ

大日如来堂

安全祈願所

金峯神社 富貴神社

逆り返るような急坂。
前を行く人の尻が
目の前に見える。

尻見坂

展望所
植林が生
して目北望
ない。ベン

丈岩。

不

大書

大日如來堂のあたりからは
木の間ごしに太平洋が
キラキラ光って見える。

こま文
文久3年

岩の中に石仏。
清水がわいている。
かつてこの水は、食
持ち帰ることは

手水鉢 文政7年
1824年
江戸時代末期

「四國百山」
「香美市公報」

林道 御在所線
梅2号入

葦生山祇神社の大祭は10月30日

墙肉土饅

かつては奉納相撲が行なわれていた。

大鳥居物語
ここにあり大きな石の大鳥居は、大正13年
若いしたちが下の川から部材を
人力で引き上げて、四オハオに
縄をかけて、いっしょに立ち上げた
ということと、古くは松茸、今
おいの藤原健一さんに口伝い
いる。藤原さんとは偶然登山口で
出会い、この山に聞けるたくさんの
貴重なお話を聞くことができた。
不思議なご縁を頂いて感謝しています。
(このマフ、藤原さんは藤原さんに聞いたお話)

水田跡、
石垣遺跡、
石を積める技術の
継承はどうなるのか。

初めての御在所山。
期待を抱えて登る。
吐く白い息は静かな
ヒノキの林に消えていく。